

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000106		
法人名	社会福祉法人光栄会		
事業所名	グループホーム りんごの里		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町小津奈木2120-62		
自己評価作成日	令和4年 2月 25日	評価結果市町村報告日	令和 4年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた雰囲気の中で習慣や能力を大事にしながら個々のペースで季節感のある楽しい生活を送って頂けるよう支援を行っています。一人ひとりに関わる時間を大切に、それぞれの思いをくみ取り、安心できるよう、また、変化する状況にも臨機応変に対応を行い、心身ともに元気で過ごしていただけるよう心がけています。
先般、併設のデイサービスとショートステイを利用されていた方が当事業所に入居されましたが、馴染みの環境が構築できていたため、入居後も混乱なく落ち着いて生活を送られています。また、当事業所から併設の特養に入居された方との交流も継続できています。コロナ禍で様々な制限はありますが、その中でできることを検討しながら、不自由さを軽減し、ご家族にも安心して頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では特別養護老人ホームやデイサービスも運営されており、コロナ禍で外部との交流が難しい時期を過ごす中でも「ご近所付き合い」のような事業所間の交流が続けられており、地域の生活が営まれているようでした。普段は施設内で調理された食事を提供されていますが、季節行事食への取り組みや、時には事業所内で昼・夕食、おやつ等の手作りも見られました。法人の考えとして家族の関わりや協力を大切にしたい取り組みを伺うことができました。事業所内で模擬商店(こまか商店)を開催し、好きな物を選んだり小銭を使う機会を作る等、社会生活の継続につながるような入居者の生活の充実や楽しみのための取り組みを大切にされている様子もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、月1回のミーティングの始まりに復唱し理念の共有に取り組んでいる。理念を踏まえた年間目標を掲げ、達成できるよう努め自己評価し、確認している。	理念は毎月のミーティングで復唱し職員間で共有している。法人の基本理念、年度法人重点目標をもとに事業所でも事業所目標を定め、評価を行っている。モットーである「あかるく・たのしく・げんきよく」はパンフレット等にも記載され親しみを感じることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外部との交流ができない状況が続いているが、保育園の慰問は、屋外で行っていたが、継続できた。	今年度はコロナ禍により地域からの来訪や入居者が外向いての交流が難しかった。保育園児のお遊戯披露訪問時は、密を避け、入居者も屋外に出て楽しむ機会となった。	例年運営推進会議等で法人・事業所と地域の連携がなされている様子が伺えました。コロナ禍が治まった際には入居者と地域を繋ぐ取組みの工夫に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、認知症カフェの活動もできず、ほとんど中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催であるが、コロナ禍のため、書面で報告し、意見を伺うようにしている。委員の方々からは、入居者様が楽しく過ごせるように職員が工夫していることへの評価やコロナ禍での職員の対応への励ましの言葉を頂いた。	例年2ヶ月1回の運営推進会議を開催している。感染症リスクレベルに応じて書面での報告となる回もあったが、その際には意見等を頂くための記入用紙を添付し、意見を頂く取組みを行っている。役所・地域からも返信を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険や福祉の関連での連携会議等は、開催されなかったが、必要な際の電話等での連絡は行っている。	日頃から報告・連絡・相談等により協力関係の構築に取り組んでいる。運営推進会議には担当課からも参加があり事業所の取組みや日常の様子を伝えている。書面報告の際にも返信書面により意見を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会を通して、身体拘束の実態を確認している。また、施設内研修を2回/年実施し、身体拘束について、繰り返し学習し意識を高めている。	身体拘束・虐待防止委員会を3ヶ月毎に開催し、年2回苑内研修を行っている。委員会では虐待の芽・ストレスチェックシートを定期的に実施し、集計内容報告や研修報告の振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて不適切ケアの事例を通して学び、また虐待の芽チェックシートを定期的に活用しながら意識づけに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	検討の必要性があった場合は、社協の窓口へスムーズに相談できるよう、関係性を構築している。また、施設内の生活相談員に相談できる環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には十分な説明を丁寧に行っている。質問や問い合わせには随時対応し理解、納得して頂くよう努めている。今年も家族様からの不安や疑問点のお尋ねなどはなかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回満足度調査のアンケートを実施している。コロナ禍での面会制限により直接話を聴く機会が少ない為、電話連絡時、ケアプラン更新時に要望や意見等を確認している。また、毎月の報告書も状況がわかり易いように工夫している。	面会は県のリスクレベルにあわせて電話・窓越し・対面にて受入れた。職員と家族のコミュニケーションを図るため管理者だけでなく職員からも電話連絡し、意見をだしやすい環境作りも行った。毎年の満足度調査でも家族に理解して頂いている様子も見られる。運営推進会議にも家族代表に参加頂き意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のリーダー会議や運営会議を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、管理者による年に1回の面談を実施し、様々な意見や要望を聞く機会も設けている。	管理者・リーダーは日頃より職員の意見を聞く体制を整えている。毎月の職員会議で出された職員の意見・提案は必要に応じリーダー会議や運営会議等により検討する。管理者による職員面談は年1回の他、申出があればいつでも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状の把握は管理者を通じて行っており、給与水準の見直しを図っている。コロナ禍で研修の機会は少なくなったが、Wi-Fi環境を整備し、オンラインで参加可能な研修へは積極的な参加を促した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必要とする研修はできるだけ全員が受講できるように時間の設定に配慮した。また、オンライン配信研修を取り入れ、基礎的技術やフォローアップ等の研修がいつでも受けられるよう環境を整えた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において地域密着部会は、リモートでの開催となったが、日程等が合わず、参加できていない。そのため、議事録で内容確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格を把握し、不安や思いをくみ取り、安心して共同生活が送れるように努めている。また、不安な思いがないか、観察や声掛けを行うとともにいつでも相談できるような雰囲気を作るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の不安や要望を気兼ねなく話せる機会を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ニーズを見極め、適切な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活や活動の中で得意なこと、できることが発揮できるよう支援し、その中で昔の知恵等教えてもらいながら、同じ場所で過ごす人としての関係が構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況を報告することでコロナ禍の面会制限によるご家族の心配や不安の軽減に努めている。感染状況によって、リモート又は対面での面会を実施し、ご家族の状況もできるだけ把握し、本人とご家族の絆が保たれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外部との交流は難しいが、施設内の交流は継続できるように努めている。また、面会制限があるため、馴染みの方からは電話や送り物があり、関係を保たれている。	例年、家族だけでなく馴染みの方や地域の方等の来訪も受入れ、関係継続の支援を行っている。今年度は県のリスクレベルにより面会制限を行っているが、法人事業所間での交流は継続しており以前からの知り合い等と会う機会もある。リスクレベルの緩和により都度対応を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を観察しながら、必要時には職員が間に入り対応したり、関係性に合わせた席の配置も工夫している。声を掛け合い、お手伝いを一緒にされる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内で特別養護老人ホームへ移行した場合、りんごの里での行事と一緒に参加して頂いたり、顔を見に行ったりと双方で行き来することで関係性を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や行動・表情の中から本人の思いや希望や意向の把握に努めている。	現状、日々の生活の中で思いや希望、意向を表すことが出来る入居者も多いため、職員との日常会話の中で把握することも多い。職員が得た希望や意向等は職員間で共有し、対応が必要とされる場合は職員会議等で対応を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から情報を得て一人ひとりの生活歴や環境の把握に努め、日常生活での会話や活動の中からも情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、日常生活の観察とバイタルチェックを行い、記録や申し送りで確認している。有する能力や課題についてはその都度、またはミーティングで検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの情報や毎月のミーティング時に得られた課題や改善点等をケアプランに反映させている。随時意見をだし、現状に即したプラン作成に努めているが、チーム全体で作るとい部分では不十分と感じている。	毎月の職員会議時には入居者それぞれのケアについて意見を出し検討を行っている。排泄や移動等に関する意見は課題も含め検討し、対応を試み決定している。ケアマネによるモニタリングも併せて入居者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきを記録し、情報を共有できるよう努めており、申し送りノートも活用し、今後のケアに繋がられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望、状態、ご家族の意向を確認しながら、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。自分の所有する土地が気になる方を家族の協力をもらい、確認に連れて行っていただいたこともあった。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域との関りができない状況ではあるが、地域で配布された商品券を利用し、地域のお店のお弁当を注文したり、地域の食材で調理するなど楽しみを持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の協力病院による訪問診療、訪問歯科により連携を図り、必要に応じて関係医療機関への受診も行っている。受診時は家族対応を基本とするが、都合により職員が対応する場合もある。また、ご家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続している方もいる。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。協力医である内科からの訪問診療、訪問歯科を受入れ、専門医等通院の際は家族支援をお願いしているが、必要に応じ職員の同行等支援している。事業所では家族との情報共有を大切に支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないため、施設内の看護師へ相談できる環境を整えている。状態に変化があった場合は協力病院へ連絡し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している病院との会議はコロナ禍のため、実施できない状況であるが、電話等で必要に応じて情報交換や相談を行い関係性の維持に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時リビングウィルの確認を行っている。重度化した場合は主治医も含めて家族様とも話し合い、法人内の特別養護老人ホームへの案内も行っている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し確認している。現状では重度化した際は法人内の特別養護老人ホームや、医療措置が必要となった際には医療機関への住み替えを希望されるケースも多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて定期的に救急救命の講習を行い、緊急時の連絡体制やマニュアルを作成し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施している(日中・夜間想定、火災・地震災害想定)。災害時に備えて太陽光パネルを設置した。	年2回の避難訓練では入居者も参加し行っている。万が一に備え、日中火災発生時のフローチャートは全職員で確認している。自然災害に備えた災害マップも共有している。過去の大雨発生の状況から、自然災害に備えた避難についても検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声かけや対応を心がけている。職員の言動が入居者様の関係性に影響を与えるため、意識するよう努めているが、まだ不十分と感じる。プライバシー保護、個人情報保護に関する研修を行っている。	入居者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、特に言葉遣いや声の掛け方への配慮等を含めた接遇に関して、毎月の職員会議を利用し管理者等より伝えている。オンラインを利用した研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いや希望を言えるような環境作りを行い、言葉で表現できない方については、普段の会話や表情などから読み取るなどして自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりの意向に沿って、その人のペースに合わせた対応を心がけているが、業務優先になってしまうところもあり、不十分と感じる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、馴染みの美容室の利用を継続している。装飾品や化粧品など好みに合わせた身だしなみができるよう、ご家族に協力してもらいながら支援している。できる限り自分で服を選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	弁当の外注や季節の食材を使ったおやつ作り、また、希望のメニューを取り入れた調理を行っている。毎日の炊飯や盛り付けは実現できていない。	法人内の厨房で作られた食事を提供している。季節を感じる献立や食材の使用等工夫しており、3ヶ月毎の給食会議では入居者の希望や提供した献立の講評も行っている。事業所内の取組みとして、入居者と共におやつや昼食・夕食作り等、季節の活動として取入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて医師や栄養士に相談し、栄養剤や嗜好に合わせた代替品を活用し、健康維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	半数以上が食事後自ら歯磨きを行っているが、声掛け、見守り介助が必要な方には援助を行っている。月に1回の訪問歯科の利用で、口腔内の状態を把握できている。自立している方への介入は難しいところもあるため、助かっている。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多い為トイレでの排泄が継続できるよう支援している。パットの種類の工夫や夜間のポータブルトイレの使用、誘導は声掛けは個々に合わせて行っている。	日中はできるだけトイレでの排泄が継続できるよう支援を行っている。パット等利用の入居者については、それぞれの状況に応じパットの種類を検討したり、ポータブルトイレの利用もある。睡眠の妨げにならない工夫もある。個々の排泄状況への対応は会議等利用し職員間で検討し試みている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックを行い、水分の摂取や適度な運動の促しを行っている。必要に応じて医師に相談しながら、便秘薬を処方してもらい、一人ひとりの状態に合わせて対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、週2回午後に行っている。体調や希望によって曜日や時間をずらすなど柔軟に対応している。残存機能の維持に努めながら、介助を行っている。状態に合わせて対応ができるよう、今年度リフト浴を導入した。	週2回程度の入浴を基本とし、その日の体調に合わせて日をずらす等している。浴槽や壁への手すりにより安全性に配慮しながら見守り支援している。入居者の身体状況に合わせた支援が行えるよう、今年度はリフト浴も導入した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を踏まえてメリハリのある生活を送って頂くよう努めている。また、体調に合わせて体に負担の無いよう、日中も休息してもらうようにし、室内の温度や使い慣れた寝具を使用させて頂くことで心地よく休めるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードをファイルし内容、副作用等すぐに確認できるようにしている。誤薬がないよう日付や名前の確認、飲み込むまでの確認など一人ひとりに合った服薬支援を行っている。薬の変更があった場合は体調の変化など観察を行い、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや能力に合わせて脳トレや手芸等を提供しており、家事活動も継続できるよう支援している。また、季節の行事や特別養護老人ホームとの合同レクリエーションなど楽しみを持って生活できるよう取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出支援はほとんど実践できなかったが、状況によってドライブや散歩は行った。施設内での活動を工夫し、気分転換ができるよう努めた。今後、日常生活の中で外に出る機会を増やせるよう工夫が必要であると感じる。	例年、季節の花見等のドライブや買い物等支援している。今年度はリスクレベルにより判断しながらドライブに出かけたり、希望があれば近隣の散歩にて外気を感じる支援を行っている。今後の課題として、花見等季節を感じるドライブの実施も検討している。	例年の「日常生活」が難しい時期を過ごしている中、ドライブや散歩を継続されている様子が伺えました。事業所では家族との協力を大切に取組みをされています。コロナ禍が治まった際には家族等との協力も検討した取組みの工夫に期待します。

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で、昨年同様お金を使う機会は少ないが、施設内の商店を定期的で開催することで継続できている。お小遣いは家族に協力して頂いている。定期的に一定額を渡してある方、職員管理の方とそれぞれであるが、本人より買い物依頼があった場合は、職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話ができるよう支援している手紙の投函の希望があった場合も対応し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物を一緒に作成し、掲示している。テレビを視聴しながら寛げるようソファを置き、テーブル席と区別した。これにより食事・作業活動に集中でき、テレビも自由に視聴されるようになった。室温に注意し、十分な動線を確保し安全で居心地のよい空間作りを行っている。	動線に配慮しながらリビングとテレビ視聴スペースを分け、入居者それぞれの席も穏やかに心地良く時間を過ごして頂けるようにしている。共用部分では入居者と共に過ごす職員の姿もあり、テレビ視聴の際は入居者自身が操作し各々の時間を過ごす姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮して席の配置をしているが、状態の変化に伴い、変更する際は難点があり課題である。また、外を眺めながら話をしたり、思い思いに過ごされている様子はみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みの物や写真を持ち込んで頂き、作品や好きな物を飾って一人ひとりが居心地よく生活できる空間になっている。できる方にはご自分で掃除を行って頂いている。	洗面台完備の居室もあり、出来るだけこれまでの生活が継続されるよう設えを行っている。これまでの生活状況により布団を利用される入居者もあり、馴染みの生活用品や写真等も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるよう動線を確保し、環境整備を行っている。居室の入り口には表札を掲げ、誰もがわかるようにしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名：グループホームりんごの里

作成日 令和 4年 5月 3日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	38	本人のペースに合わせ、 できる場所を維持する ことが不十分	できる場所を見極め、 維持できるような工夫を する	<ul style="list-style-type: none"> ・できる場所をスタッフ 一人ひとりが観察し、 維持できるような工夫を スタッフ間で検討する ・サポート役に徹する 	12か月
2		コロナ禍で面会制限や地 域の方々との交流が難し いため、どう支援してい くか	入居者様、ご家族様がス トレスなく生活でき、地 域と繋がっていることを 実感してもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・法人事業所間での交流 は継続していく ・制限があっても家族と の関りが持てるよう工夫 していく ・感染状況をみながらの 外出や交流の方向を工夫 する 	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

